

一挙に全ての共同事務 解消はいかなものか

新井頸南広域行政事務組合が解散へ

8日の市議会厚生常任委員会では、板倉区や中郷区のゴミ処理や火葬などを妙高市とともにやっている広域行政事務組合を、再来年3月末に解散するための協議が進められていることが報告されました。

これは、新クリーンセンターの稼働にともない、板倉区や中郷区のゴミの処理を同施設で行えることになることから、「市内のサービスは市内の施設で」という本来の姿に戻そうというもののようです。

しかし、問題はゴミ処理だけでなく、斎場の使用などの事務も解消されることです。現在妙高市の経塚斎場を利用している同区の住民は、これまでと比べてかなり不便になります。

そもそも、ゴミ処理は新クリーンセンターの建設というできごとがあり、共同事務の解消はうなずけますが、斎場の使用に関しては解消の理由がありません。ついでに一挙に共同事務を解消するというのはいかなもののでしょうか。

平良木議員は、「あくまでも地域住民の利便性を最優先にして、分けて考えるべき」と指摘しました。



妙高市経塚斎場

日本共産党上越市議員団ニュース

No. 505 2016年6月19日

連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
 絡 橋本 正幸 080-1980-9855 (三和区鴨井)
 先 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)

確実に支払われる仕組みづくりが行政の責任

消防団の「無報酬」問題を指摘

13日の総務常任委員会は、議案審議終了後、協議会に切り替え、消防団の「無報酬」問題について質疑を行いました。

これは、昨年4月、市民から「私は現役消防団員です。入団してから一度も団員報酬を受け取ったことがないのですが、報酬は各自の口座に振り込みはできないのでしょうか」との投書が市に届いたことが発端です。その後、市のオンブズパーソンが調査し、報酬を団員に直接支払うよう市に求めましたが、市は「各団員が上司の分団長に報酬を代理受領することと同意する委任状を提出しており、市のやり方に違法性はない」として直接振込に応じていません。

このことを重視した橋爪議員が、正確な事実関係の調査と改善を求めようと、総務委員長に質疑の場を設けるよう要求。この結果、協議会が開催されました。

質疑では、橋爪議員が、「今日4日にはマスコミでも報道されている。オンブズパーソンが意見表明をしたにもかかわらず、改善されていないというのはどういう経緯か」とたどりました。

これに対して市当局は、「県内では5市が団員に直接支払いしている。当市は分団長の口座に振り込んでいる。地域の消防団後援会からの入金などもあり、各分団のや

りやすいようにやっていると考えている。投書の扱いには苦慮しており、消防団には各分団の運営方法を団員に説明するように指示した」と答えました。同時に、「本来に支払われていなければゆゆしき問題だが、報酬をどのようにとらえるかという視点もある。いろいろ聞くと、支払われていないということはないと思う。受領の委任は、委任者と受任者の信頼関係にかかっており、市の役割は振込で終了している。今後は分団長から各団員への説明を徹底させる」として、市としての調査や仕組の改善には消極的な姿勢を示しました。

そこで、橋爪議員や他の議員が、「報酬がわたっていないという投書があったら防止の仕組みを作るのは行政の仕事ではないか。二度とこうしたことが起こらないようにすべきだ。事実関係の調査と防止策が市民の信頼を得る上できわめて重要だ」「ベストは個人口座への振込だ。でなければせめて個人からの受領印を確認すべきだ。なぜ躊躇するのか」と、重ねて指摘しました。

これに対して、副市長が答弁に立ち、「報酬は退団の際まとめて支払うという例もあるようだが、もう一度消防団と話し合って、実態調査を含めて方向性を出したい」と積極的な姿勢を表明しました。

北陸4県の野党統一候補がそろって「戦争法廃止」訴え

11日、上越妙高駅前にはかかってない熱気に包まれました。参院選の北陸4県の野党統一候補4人がそろい、市民に向けて「安倍政権の暴走ストップ」「戦争法は廃止を」と訴えました。

訴えたのは、森ゆうこ(新潟)、道用えつ子(富山)、しばた未来

(石川)、横山たつひろ(福井)の4人。いずれも多く市民の強い声に押されて、野党各党が小異を捨てて大同についた結果、実現した統一候補です。

史上初めて全国32の一人区すべてで実現した野党の統一の力で、安倍政権を追いつめます。

